

Y06b 『宇宙スペクトル博物館：X線編 –みえない星空への招待–』 版

粟野諭美（岡山天文博物館）、北本俊二（阪大理）、衣笠健三（ぐんま天文台）、田島由起子（金蘭会高校）、福江 純（大教大）

昨年の春季年会において紹介・配布をした『天文教育用マルチメディアソフト 宇宙スペクトル博物館』の続編、『宇宙スペクトル博物館：X線編』について、 版を紹介する。

前作の『宇宙スペクトル博物館』は、全国の博物館・公共天文台および大学の研究室などの天文関連施設のほか、学校教育関係者にも紹介し、現在その活用が探索・実践されているが、そこでは可視光のスペクトルのみを扱ったので、今回はX線に注目してみた。X線天文学は今や天文学における一大分野であるが、この目に見えない電磁波は実生活においては馴染みの薄いものである。高校教育課程においてもほとんど扱われることのないこのX線というものを、ここでは身近な例を取り入れ、まずは“X線とは何なのか？”という視点から導入をはかる。一般的なX線の性質を学べるようにするとともに、X線スペクトルの観測によって新たに開かれた星空の世界を、可視光との違いを比較しながら初心者にも解りやすく紹介していく。本ソフトはHTMLで記述され、ブラウザを利用して初心者の一人学習が可能であるとともに、専門家の一般講演などでのプレゼンテーション資料としても十分活用できるものを目指している。

まだ製作途中ではあるがここで紹介し、広く意見を頂き参考にさせて頂きたいと考えている。